■学校規模適正化検討委員会　先進地視察報告

1　目的

竹原市にある竹原市立吉名学園（義務教育学校）の視察を通して、今後の学校の在り方やその実現に向けた方策等の協議の参考とする。

2　実施概要

日時	訪問校	住所
12 月 18 日（木） 10：00～12：00	竹原市立吉名学園	広島県竹原市吉名町２６７１番地

相手方	参加委員
竹原市教育委員会 沖本　太　教育次長兼総務学事課長 大橋　美代子　参事兼教育指導担当課長 五反田　貴文　総務学事課教育総務係長 竹原市立吉名学園 伊場田　真彦　校長 吉川　和生　教頭 吉本　由佳　教頭	江田島市学校規模適正化検討委員会 沖元　成寿　副委員長 牧瀬　翔麻　委員 白澤　文恵　委員 早稲田　圭　委員 黒川　奈緒子　委員 髙橋　結花里　委員 野田　有衣　委員 江田島市教育委員会 三島　雅司　教育長職務代理者 江田島市教育委員会事務局 矢野　圭一　教育部長 黒小　大介　学校教育課長 浜中　健三　学校教育課課長補佐

3　日程

時　間	内　容
10：00～10：10	竹原市教育委員会挨拶 吉名学園校長挨拶 江田島市教育委員会挨拶及び自己紹介
10：10～10：25	竹原市教育委員会説明
10：25～10：40	吉名学園説明
10：40～11：25	学園内見学（授業参観等）
11：25～11：55	質疑応答
11：55～12：00	閉会挨拶

4　主な質疑内容

委　員：義務教育学校は学びが広がるチャンスだと思うが教職員の意識改革が大切だと考える。試行錯誤されているのが印象的であった。市内でも今後増える見通しと聞いたが、通学距離や時間を考慮しているか。

竹原市：竹原市はとてもコンパクトな市である。市内中心部から仁賀まででも 20 分で行ける。とはいえ、保護者も心配している部分でもある。小学校の場合は４㎞、中

学校の場合は５㎞で路線バスに乗れるよう通学支援を行っている。路線バスがない場合は、スクールタクシーを運行している。竹原小学校と令和８年度に統合する大乗小学校は路線バスに乗るには人数が多いので、１、２年生はスクールタクシー、その他の学年は路線バスとしている。

委　員：校内にワクワクするような仕掛けや掲示物が多くあった。異年齢の関りなど、こどもたちがやってみたいなと思えるチャンスがあるように感じた。こういった学校を作るための教員の意識改革はどのように行っているのか。

竹原市：県の研究指定校になったのもよかった。こどもの思いに基づいた単元を作っていこうとする取組を行っている。こどものアイディアを否定せず、こどもに返す。こどもたちは自分たちのアイディアを実現させようと取り組んでいるが、当然実現にはハードルがあって、地域に提案しても厳しい意見が返ってくる場合もある。それでもこどもたちは改めてプレゼンして頑張っている。最初は、こどもに任せるというのは難しいと感じる教員もいるが、単元づくりを通して少しずつ変わっている。コミュニティ・スクールの力も大きい。地域にお願いすると協力してもらえる。

委　員：義務教育学校として統合すると小中で１校となる。今後賀茂川ブロックもそうなるが、地域住民の反対の声ははかったのか。

竹原市：パブリックコメントでも意見はあった。吉名学園が義務教育学校になるときも、小学校が地区の中心地にあって、中学校が山の上にあったので、小学校の場所の方がいいのではないかという意見もあった。最終的には、小学校が耐震性もなかったこともあり、児童生徒にとって何がよいのかという視点で説明していくと保護者は納得された。ただ、準備委員会などでは、地域からはいろんな意見は出る。

委　員：江田島市では廃校になった学校の跡地は、その後図書館になるなど、にぎわいにつながる活用ができている事例もあるが、竹原市では廃校になった学校はどうなっているのか。

竹原市：民間が入っているところもあれば、そのままのところもある。解体できていない校舎もある。

委　員：統合して義務教育学校となるが、保護者や市民に対して、義務教育学校に関するＰＲはしているのか。

竹原市：市でケーブルテレビを持っており、そこで学校の様子などをよく放送するので、市民には伝わっている。小学校、中学校でもない義務教育学校の強みをアピールしている。

委　員：義務教育学校の場合、小学校から中学校まで人間関係が変わらない。こども園から考えると 10 年以上同じ人間関係となるが、それについてはどうか。

竹原市：トラブルがないわけではない。ただ難しさは感じていない。それでも人間関係が固定化しないような工夫は必要だと思う。学校の外へ出て、他者との関りを増やすなどの取組は必要である。

委　員：吉名学園の不登校やいじめはどのような状況か。
竹原市：不登校は前期課程で 2 名、後期課程で 1 名いる。ただオンラインで授業を受けたりしている。いじめの重大事態は起きていないが、トラブル程度は発生している。小学校で起きたいじめ事案についても、その後中学校まで後追いしていけるのは強みである。小中連携がしやすいと思う。

委　員：こども園とは連携できているのか。
竹原市：芋ほりを一緒にしたり、文化祭で交流したりしている。こども園の園児が、学校のグラウンドを遊び場として使う場合もある。

委　員：教科担任制はどのように行っているのか。
竹原市：後期課程（中学校）の教員が専門性を生かして、小学校の授業にも出ている。外国語は後期課程の教員が、全ての学年の授業に出ている。前期課程（小学校）でも中学校の免許を持っているものがいるので、後期課程の授業に出ることができればよいが、担任を持っているので、なかなかそこはできていない。

委　員：統合の際、地域、保護者、市の 3 者合意は行っているのか。
竹原市：統合に関する合意形成は難しい。反対する人はどうしても反対する。統合はあくまでこどものために行うという信念をもって統合を行っている。財政的なメリットではなく、こどもたちが切磋琢磨できる環境が望ましいと説明しており、保護者の理解も進んでいると思っている。

委　員：教員の確保について。義務教育学校の場合は、小学校と中学校の免許を持っている教員を県から優先的に配置してもらっているのか。
竹原市：そうなればいいが、実際そのように県から配置されているのかどうかはわからない。ただ市としてはそのことは要望している。

5　視察の様子